

便潜血検査について

消化器内科

便潜血検査は大腸がん検診として広く行われています。ヒトの赤血球に含まれるヘモグロビンにのみ反応する免疫法で行うため、肉や魚の血には反応せず、口や胃からの血液は多量でない限り消化されるので反応しません。便潜血陽性ということは大腸から肛門までのどこかで出血をしているということの意味しています。出血の原因はがん、ポリープ、炎症、痔などいろいろあり、その原因を大腸内視鏡などの精密検査で調べることになります。便潜血検査で陽性となった方のうち、がんが見つかるのは500人に1人程度ですので、検査に引っ掛かっても怖がらずに精密検査を受けることをお勧めします。少しでも見逃しを少なくするため通常2日分の便を調べますが、便に血が混じらないと検査に引っ掛からないため、進行がんで約10〜20%、

岡本 博司 さん
国吉病院 消化器内科部長



早期がんで約50%を見逃してしまうといわれています。見落としを少なくするためには便潜血検査を毎年受けることがお勧めです。